

# 自己紹介

```
わたなべさん = {  
  :職業 => "フリーランスエンジニア",  
  :エンジニア歴 => ,  
  :趣味 => ,  
  :今仕事で使っている技術 =>  
}  
  
かわうち = {  
  :職業 => "フロントエンドエンジニア",  
  :エンジニア歴 => "6ヶ月",  
  :趣味 => "将棋を見ること",  
  :今仕事で使っている技術 => "TypeScript, React"  
}
```

# このチャンネルの趣旨

- ベテランエンジニアと駆け出しエンジニアがやったことがない言語(Ruby)と一緒に勉強したらどうなるのか(語彙力)

## 狙い

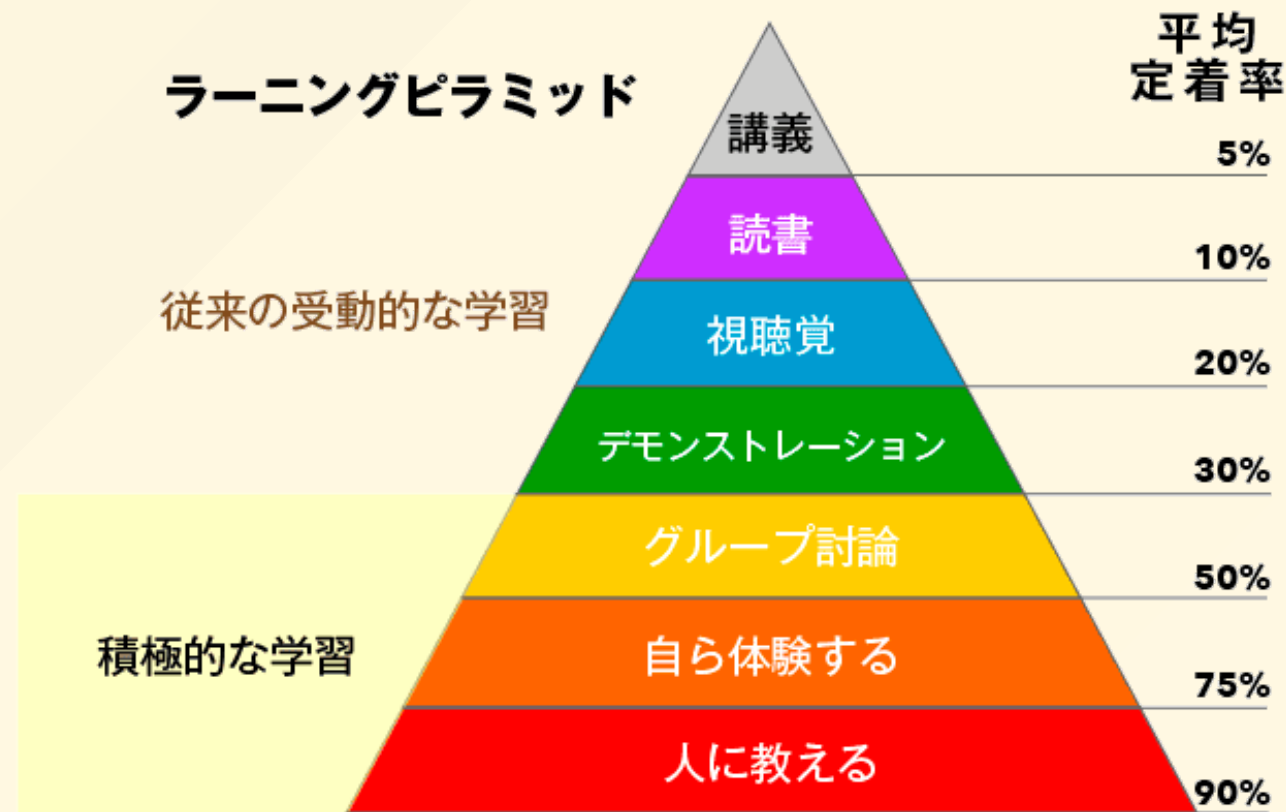
- 1人で解説しているチャンネルは多いが2人でしかも使ったことない言語を勉強しているチャンネルはみたことがなく、おもしろそう。
- アクティブラーニングを狙う

# アクティブラーニングとは

アクティブ・ラーニングは学修者が能動的に学習に取り組む学習法の総称である。

“ wikipediaより引用 ”

学習定着度は自分が主体的になるほど高くなるということ。



出典：U.S. National Training Laboratories

## 環境構築(パソコンでRubyを使えるようにすること)

プロゲートの「Rubyの開発環境を用意しよう！」がわかりやすいです  
(時間がかかってしまうので今回僕たちはすでに構築済みです)

### 環境

- **Ruby:3.0.0**
- **vscode**

## 一番重要な出力の方法

```
puts "hogehoge"
```

```
puts 2
```

```
puts 1 == 2
```

## 変数宣言

```
apple = "りんご"
```

```
number = 1
```

```
is_number = true
```

# 配列

## Rubyの場合

```
numbers = [1,2,3,4,5]  
puts numbers
```

## JavaScriptの場合

```
numbers = [1,2,3,4,5]  
console.log(numbers)
```

## 繰り返し処理

```
numbers = [1,2,3,4,5]
numbers.each do|number|
  puts number * 100
end
```

## ハッシュ

```
user = {
  name:'yamada',
  age:33
}

puts user
puts user[:name]
user[:gender] = "男"
```

# 関数

```
def introduce(name, age)
  puts "私の名前は#{name}で、#{age}歳です"
end
introduce('山田', 33)
```

```
def introduce(name:, age:)
  puts "私の名前は#{name}で、#{age}歳です"
end
# introduce('山田', 33)これはアウト
introduce(age:33, name:"山田")
introduce(name:"山田", age:33)
```



# if文

```
bool = true  
if bool  
  puts bool  
end
```

Rubyを勉強するチャンネル